

令和7年度瀬谷地区 幼保小教育交流事業

瀬谷地区活動テーマ

架け橋期における主体的・対話的で深い学びの実現
を図るために

～幼保小の協働により、子どもたちの育ち・学びを
豊かにつなぐ、支える～

5月
総会・第1回ブロック研修会（小10校
園31園）

6月
健やか子育て講演会
「はじめの100か月の育ちビジョン」
公開授業参観
（原小、二つ橋小、上瀬谷小、瀬谷第二小）

7月
公開保育参観
（鳩の森愛の詩宮沢保育園、中屋敷保育園、
鳩の森愛の詩瀬谷保育園）

第1回ブロック研修会

11月
小学校一斉授業研究会 参観

第2回ブロック研修会

1月
小学校一斉授業研究会 参観

健やか子育て講演会

はじめの 100か月の 育ちビジョン

講師

玉川大学教授

大豆生田啓友先生



こどもの脳と心の発達にとって、乳幼児期の環境と経験がいかに大切であるか、子どもたちの生涯のウェルビーイングにつながるかということについてお話がありました。

この時期に、子ども自身が「自分の声を聴いてもらえている」「自分らしさを大切にされている」と感じられるようにかかわっていきたいものです。講演会では、保育園での「こどもかいぎ」や「ロケットプロジェクト」のビデオも紹介されました。

令和7年度

幼保小 Bブロック交流

◎相沢小学校

- ・わらべ細谷戸保育園・瀬谷愛児園

◎二つ橋小学校

- ・あづまの幼稚園・二ツ橋保育園・シャローム三育保育園
 - ・Gakken保育園二ツ橋・保育室「ネスト」
-

5年生との交流

【レク】 体育館でグループに分かれて、いろいろなレクを楽しみました。

【学校探検】 校内の教室を探検しました。楽しくやりとりをしながら周ることができました。



1年生との交流

【むかしあそび】 体育館を使い、あやとり・羽つき・けん玉・お手玉・こまに挑戦しました。

【1年生体験】 教科書やiPad、お道具箱を見たり、ランドセルを背負ったりしました。



成果と課題

【5年生】自分たちが主体となって交流会を企画し、一生懸命準備を進めました。交流当日には相手のことを思いやって活動する姿が見られ、来年度ペア学年になるという意識をもつことができました。

【1年生】自分たちが入学したころのことをイメージし、「優しくしてあげよう。」「こんなことを教えてあげよう。」と工夫して準備することができました。当日は、一緒に楽しみ、そして優しく声をかけながら交流することができました。

幼稚園、保育園の方からは、「5年生から優しい声掛けをしてもらえて嬉しかった。」「周りの様子をよく見ていて、一人でいる子には声をかけて関わってくれた。」という声がありました。引き続き、児童と園児が楽しみ、そしてお互いを思いやりながら、成長のきっかけとなるように交流をしていきたいと思えます。

前年、総合的な学習の時間で近隣の園と交流をした学年があり、それがよかったとの声がありました。幼保小教育交流事業以外でも、地域の園とのかかわりを増やしていきたいと思えます。

上瀬谷ブロック（上瀬谷小学校 中屋敷保育園）



交流① ～出会い～

学校の校庭に保育園の子たちがお散歩に来ていたよ。「一緒にあそぼう!」と声をかけたかったんだけど恥ずかしくて…かくれんぼをしていたら、自然と一緒に遊べたよ。鉄棒も順番を守って譲り合って遊べたよ。年長さんは、たんぽぽ組さんっていうんだね。



交流② ～どろんこ遊び～

保育園に招待してもらったよ。園庭で“どろんこ遊び”をしたんだ。どろを流したいときは、雨どいの重ね方にコツがあることを教えてあげたよ。どろって温かいし、一緒に遊ぶと楽しいな。また一緒に遊びたいなあ。



交流③ ～シャボン玉パーティー～

今回は1年生がシャボン玉パーティーに招待したよ。シャボン液をぶくぶくしてあわを作る「あわあわやさん」に来てくれて、一緒にあわをたくさん作ったよ。「あわで遊ぶの楽しかった!」と言ってくれて嬉しかったなあ。



交流④ ～秋遊び～

もっといっしょにたんぽぽ組さんとすごしたくて、秋遊びに招待したよ。何かを作るのが好きなんだって。そうしたら、どんぐりをたくさん拾って持ってきてくれたんだ。「きり」の安全な使い方を伝えて、一緒にどんぐりごまを作ったよ。

瀬谷小学校

ゆたか幼稚園・さがみ幼稚園・ゆたか保育園・GENKIDS瀬谷保育園

ティンクル瀬谷保育園・ネスト瀬谷保育園

12月8日(月)・12日(金)、
二日間に分けて1年生と年長さんが交流
しました。

体育館でバディをつくり、1年生の司会
で会がスタート。ピョピョ体操をして体を
動かしました。もうじゅうがりへいこうよの
「がっこうへいこうよ」バージョンとじゃん
けん列車で遊びました。

自分の椅子に座
らせて、年長さんの
目線になって教え
る姿が見られまし
た。相手を思いや
る気持ちが1年生
は育ちました。



教室で、椅子に座ってどんぐりのおもちゃや算数ブ
ロックなどで一緒に遊びました。ランドセルを背負っ
たり給食の白衣を着たりしました。1年生はすっかり
お兄さん・お姉さん気分。年長さんも1年生気分にな
りました。

最初はドキドキしていた年長
さんも、遊んでいるうちに笑顔
が増えてあっという間に仲良し。

園の先生より

☆教室たんけんが楽しそうでした。
☆ランドセルにはポケットがたくさん。
何を入れているか見せてもらって嬉
しそうでした。



2月には5年生との交流もあります。入学したら1・6年生のバディになるので、5年生も張り切っています。学校探検を予定しています。年長さんが、学校が楽しみだな、優しい人が学校にいるんだなと思ってくれるような交流ができるといいなと計画しています。

令和7年度 瀬谷区 Cブロック 活動報告（成果と課題）

○成果

<小学校>

- ・事前に幼保小で打ち合わせをすることで、子どもたち主体の活動となった。
- ・実行委員を設けて活動した。年長さんに頑張っている姿を見せたいと、はりきっていた。
- ・活動を通して、相手意識の高まり（6年生に支えてもらうばかりでなく、年長さんを支える喜び）を感じていた。
- ・昨年のことを振り返り、自身の成長を感じながら活動していた。
- ・学校区によっては、幼稚園とのグループラインを作成し、年2回（春・夏）集まり計画を立てて交流することで、学校行事を意識し、より活動の数と質が高まった。



<幼稚園・保育園>

- ・園児にとって、小学校理解の手助けとなっている。
- ・1年生に写真を使ったクイズなどをしてもらい、学校の様子がよく分かった。また、1年生の姿が年長さんにとって、良い刺激となった。
- ・1年生と一緒に学校探検をしてくれることで、机やいす、教室などのサイズ感も分かり、園児にとって不安の解消につながった。

●課題<共通>

- ・5月に集まり、年間計画を持ち寄り計画を立てるが、その後の都合により予定を変更せざるを得ないことがあり、調整が難しいと感じた。11月後半～12月は比較的交流している学校・園が多かった。
- ・グループラインを活用しているチームは、今年度実施できなかったことを次年度実施に向けて調整していきたい。

瀬谷区 Dブロック活動報告①

(瀬谷第二小学校・下瀬谷保育園・瀬谷中央保育園・瀬谷第二保育園・しらゆり幼稚園)

【10月】運動会練習&学校見学

年長さんが、運動会練習の様子を見に来てくれました。
1年生が、いつもよりはりきって取り組む様子が見られました。
年長さんからプレゼントをもらい、1年生もお返しをしたいという
気持ちが芽生えていました。



【2月】新1年生交流会&学校探検

新一年生を招待して、学校を案内したり、
一緒に遊んだりして、学校の楽しさを伝えました。
プレゼントのお返しとして、メダルを渡しました。



年長さんが楽しそうに関わってくれたので、
1年生も優しく、学校の楽しさを伝えることができました。

(南瀬谷小学校・瀬谷保育園・鳩の森愛の詩宮沢保育園)

【1月】新1年生との出会い・交流会

「わくわく交流会」

子どもたちは園との交流を前向きに捉え、学んできたことを生かしたり、周りとのコミュニケーションを取りながら準備を進めました。実行委員を立ち上げ、自分たちの思いも大切に交流会をつくり上げました。子どもたち自身がつくったメダルや育てたアサガオの種もプレゼントしました。

当日は、1年生がゲームのサポートや教室探検をすることにより、相手意識が高まっていました。コミュニケーションや声掛けの難しさを実感している子もいましたが、互いに笑顔が見られるようになり、関わり合うことのよさを学ぶことができました。



1年生の子どもたちは思いやりの心を大切に
関わり合うことができました。お兄さん、お姉さん
としての自覚をもち、より成長した姿が見られま
した。

瀬谷区 Dブロック 成果と課題

○成果

園児が小学校の環境や活動を事前に体験する機会を設けることができ、入学に対する不安軽減や期待感の向上につながった。また、小学校教員が園児の発達段階や生活習慣、集団での関わり方等について理解を深める機会となり、就学後の指導や支援に生かす意識の醸成につながった。幼稚園・保育園においても、小学校での学びや生活を見据えた保育の在り方を再確認することができ、育ちの連続性を意識した取組を進める契機となった。

○課題

子どもにとって有意義な経験となった一方で、交流の内容や回数に限られており、単発的な取り組みになってしまった。短時間の交流では、園児一人一人の様子を十分に把握することが難しく、就学後の支援や指導に十分につなげきれない面が見られる。継続的な交流を定着させ、園児が安心して4月を迎えることができるように計画的な交流を検討していくことが必要である。

